

新 1 年次用

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
言語文化	必修	3	1	普通科

科目の概要		上代から受け継がれてきた日本の言語文化への理解を深めることを主眼に置き、言語文化の担い手としての自覚を養い、社会人として生涯にわたって幸せに生きるために必要な国語の資質・能力の基礎を身につける。			
教材名		教科書	「言語文化」（数研出版）		
		副教材	「九訂版 体系古典文法」「準拠ノート」（数研出版） 「新版 核心古文単語 351」「新名説漢文」「新名説漢文ノート」（尚文出版） 「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「進研 WINSTEP 古文 1」（Learn-S）		
担当者		新居 大輔 ・ 小山内 早苗			
学習到達目標		日本の言語文化への理解を深めるために、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。 （１）日本の古典や文学作品を理解するために必要な知識や技能を身につけるようにする。 （２）作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わる態度を養う。			
学習方法		（１）音読と反復、確認テストによって基礎的な知識の定着を図る （２）グループワークを有効活用し、思考力・表現力を養う （３）できるだけ多くの古典・文学作品に触れ、豊かな感性と読解力を養う。			
評価基準と 評価規準 ルーブリック			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		評価方法	考查 小テスト 課題	考查 授業中の活動 課題	授業中の活動 課題
		A	古典文法や漢文の句法など、古典特有の表現について十分に理解している	文章の構成や展開、表現の特色を捉え、内容を理解・解釈し、自分の考えをもてる	言葉を通じて積極的に他者と関わり、言語文化の価値への認識を深めようとしている
		B	上記Aの項目について概ねできている	上記Aの項目について概ねできている	上記Aの項目について概ねできている
		C	上記Aの項目について努力を要する	上記Aの項目について努力を要する	上記Aの項目について努力を要する

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	古文入門① 「C 読むこと」 10	<古文の基本1> ・歴史的仮名遣い ・古語・品詞・活用・活用形 ・動詞・形容詞・形容動詞 ・説話「宇治拾遺物語」など	10	前期中間考査・返却
5				
6	漢文入門① 「C 読むこと」 5		5	
	近現代文学鑑賞① 「B 書くこと」 3	<近現代文学1> ・芥川龍之介「羅生門」	3	前期中間考査・返却
			2	
7	古文入門② 「C 読むこと」 10	<古文の基本2> ・助動詞・助詞・副詞・敬語 ・物語「竹取物語」随筆「枕草子」など	15	
8	漢文入門② 「C 読むこと」 5		8	前期期末考査・返却
9	近現代文学鑑賞② 「B 書くこと」 3		3	
		<近現代文学2> ・田村虎彦「沖縄の手記から」	2	
10	古文読解① 「C 読むこと」 10	<古文読解1> ・和歌「百人一首」随筆「徒然草」 歌物語「伊勢物語」	15	後期中間考査・返却
11	漢文読解① 「C 読むこと」 5		8	
	近現代文学鑑賞③ 「B 書くこと」 3		3	
		<近現代文学3> ・中島敦「山月記」	2	
12	古文読解② 「C 読むこと」 10	<古文読解2> ・日記文学「土佐日記」 軍記物語「平家物語」	10	後期期末考査・返却
1	漢文読解② 「C 読むこと」 5		5	
2	近現代文学鑑賞④ 「B 書くこと」 3		3	
		<近現代文学4> ・吉野弘「I was born」 短歌・俳句	2	
3	1年間の振り返り		9	

書くこと…… 15時間

読むこと…… 90時間